最前線で活躍するスタッフのみなさんへ

Frontliner

[フロントライナー]

9

2025 vol.43

クリーンスタッフのためのビジネスマナー講座

レベルアップ清掃作業 キホンの“キ”

日本保健衛生協会

クリーンスタッフのための

ビジネスマナー講座

第9回 出退勤や休憩などのルール

① 出勤

- 仕事を始めるまでに、十分な時間の余裕を持てるように出勤しましょう。
- 仕事のはじめには、お客様や職場の仲間と元気な挨拶を交わしましょう。

② 休憩

- 決められた時間と場所で休憩しましょう。
- 休憩時間であっても、職場のルールと節度を守りましょう。周囲から見られていることを忘れないようにしましょう。

③ 退勤

- 1日の作業が完了したことを確認し、日報などの報告書類を記入してから退勤しましょう。
- 使用した用具類は、定められた方法で手入れして片付けましょう。何か不具合があれば必ず担当者に報告しましょう。
- 退勤するときは「おつかれさまでした」「お先に失礼します」の一言を忘れないようにしましょう。

④ 遅刻、早退、欠勤

どうしても遅刻や早退、欠勤をしなければならない場合は、速やかに担当者に連絡しましょう。

連絡なしに無断で行うと、お客様や同僚に大変な迷惑や心配をかけることになります。

遅刻

- 遅刻の理由、出勤の予定時刻を連絡しましょう。
- 事前に遅刻することが分かっている場合は、その内容を担当者に連絡して許可を得ましょう。
- 遅刻して出勤したときは、担当者に到着した旨を報告し、速やかに仕事に就きましょう。

早退

- 早退の理由、早退の予定時刻を連絡しましょう。
- 早退するまでに、仕事の段取りや引き継ぎを済ませ、仕事が中途半端にならないようにしましょう。
- 早退時刻になったら、担当者に仕事の進捗を報告してから退勤しましょう。

欠勤

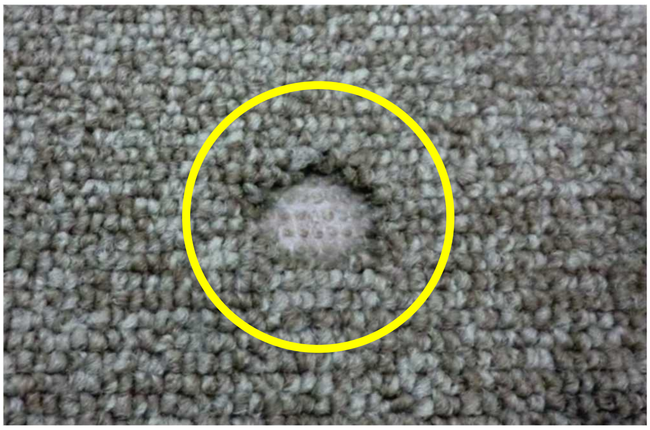
- 事前に欠勤することが分かっている場合は、定められた方法で届け出を行いましょう。
- 急な欠勤の場合は、速やかに担当者に連絡し、定められた方法で届け出を行いましょう。

清掃用具と洗剤の知識

洗剤を使用するうえでの注意点

● 清掃場所に適した洗剤を選ぶ

私たちが建築物清掃で使用する洗剤は、それぞれの洗浄対象に適するように調整されています。したがって対象以外の作業に使用すると、洗浄効果が落ちるだけでなく、建材にも悪影響を及ぼすことがあります。
洗剤を選ぶ際は、洗浄効果だけでなく、建材や環境への影響を考慮しなければなりません。はじめて使用する洗剤は、差し支えのない場所で試しに使用してみることも必要です。



酸性洗剤によって繊維が溶けてしまったカーペット

● 適正な濃度で使用する

洗剤には十分な効果を発揮する適正な濃度があります。濃度が低いと洗浄力が落ちるのは当然ですが、むやみに濃度を高くしても洗浄力は向上しません。一定濃度以上は無駄になり、かえってすすぎ洗いに手間がかかります。洗剤は、メーカーが指示している適正な濃度に希釈して用いるのが、もっとも効果的な使い方です。

洗剤を作るときの計算式

必要な原液の量＝作りたい洗剤の量÷希釈倍率

必要な水の量　＝作りたい洗剤の量－原液の量

（例）30倍希釈で300ml の洗剤を作る場合

①必要な洗剤の原液の量を求めます。

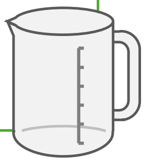
必要な原液の量＝300ml÷30倍＝10ml

②必要な水の量を求めます。

必要な水の量＝300ml－10ml(①の量)＝290ml

③洗剤の原液10ml と水290ml を合わせると、
30倍希釈で300ml の洗剤ができます。

※洗剤を希釈するときは、計量カップを使って
正確に分量を計りましょう。



● 洗浄作業後は十分すすぐ

洗浄作業後は、水拭きを行って洗剤分を取り除くことが必要です。建材表面に洗剤が残っていると、汚れが付着（再汚染）しやすい状態になります。すると建材への汚れの付着が早まり、カビが発生したり、ダニが繁殖したりする可能性があります。また建材に変色が起こったり、床に樹脂床維持剤（樹脂ワックス）を塗布した際、皮膜の形成が妨げられたりします。

● 洗剤を扱うときは十分注意を払う

私たちが清掃作業で使用する洗剤や薬品は基本的には安全です。ただし中には人体に有害なものや、取り扱いに注意を要するものもあります。使用にする際は、安全上の注意を怠らないようにしましょう。

❶ 洗剤や薬剤を扱う際は、ゴム手袋やビニール手袋などの保護手袋を着用しましょう。

❷ 種類の異なる洗剤や薬品をみだりに混ぜないようにしましょう。有毒ガスが発生することがあります。

※塩素系洗剤（漂白剤、カビ取り剤など）と酸性洗剤（トイレ用洗剤、浴室用洗剤など）を混ぜると塩素ガスが発生します。

❸ 洗剤や薬品を希釈したら長期間放置しないようにしましょう。使わないまま放置すると、洗浄力や除菌力が低下して、本来の効果が発揮できません。

❹ 希釈した洗剤や薬品を元の容器に戻さないようにしましょう。ｐＨ値や性質が変わってしまい、洗浄力や除菌力が落ちてしまいます。

❺ 塩素系洗剤を使用するときは、窓を開け、換気扇を回して、蒸発したガスを吸い込まないようにしましょう。

❻ 中身が分からない洗剤や薬品は、みだりに処分しないようにしましょう。排水パイプが破損したり、ガスが蒸発したりして、建物や環境に悪影響を及ぼす恐れがあります。不明な洗剤や薬品がある場合は、本社担当者に連絡して対処方法を確認しましょう。

❼ 洗剤や薬品を別の容器に移し替えたり、小分けしたりしないようにしましょう。容器が破裂したり、内容物が漏れだしたりします。

以下の組み合わせは、ガスが発生して容器が破裂したり溶解したりする恐れがあり非常に危険です。

- ● アルミニウム缶とアルカリ性洗剤
- ● アルミニウム缶と酸性洗剤
- ● スチール缶と酸性洗剤

❽ もし洗剤や薬品が目に入った場合は、目をこすらないようにして、すぐに流水で目を１５分以上洗いましょう。その後、本社担当者に連絡し、病院で診察を受けましょう。